組　　番

修飾語のルール

豊かな文を作るには、修飾語のつかい方を工夫することが必要です。

1．次の語は、主語・述語・目的語・修飾語のどれですか。修飾語の場合、「時間・場所・場面・手段方法・目的・原因理由・条件・相手・程度・数量・様子・評価」のどれを表していますか。

①　父は　昼から　母と　車で　街へ　買い物に　出かけた。

②　私は　できれば　みんなの前で　自分の意見を　一度だけ　はっきりと　言おう。

③　激しく　雨が降るので　残念ながら　遠足は　中止になるだろう。

2．「主語＋述語」で構成されている「文」を、まとまった「句」にして、より情報量の多い複雑な「文」にふくらませることができます。これを「装定」といいます。

①空が青い。
②<u>青い空</u>は、すがすがしい。
③（すがすがしい青い空　　）の下で、体育祭が実施された。
④（すがすがしい青い空の下で実施された体育祭　　）は、高校生活の貴重な思い出だ。
⑤（すがすがしい青い空の下で実施された高校生活の貴重な思い出である体育祭　　）は、卒業アル　バムの一頁を飾っている。

3．修飾語の順序には、ある一定のルールがあります。次の文の成分を意味がわかりやすくなるように並べてください。

①（　）雨が　（　）太陽が照りつける若葉に　（　）豊かな潤いを ―― 与えた。
②（　）初夏のさわやかな雨が　（　）若葉に　（　）豊かな潤いを ―― 与えた。
③（　）初夏の雨が　（　）もえる若葉に　（　）豊かな潤いを ―― 与えた。

＊
＊
＊